

豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成

関中だより

令和2年
1月8日
第29号
(文責 花岡)

明けまして

おめでとう

ございます

2020

本年もよろしく
お願いいたします



三学期は、三年生を送る会や卒業式はあるものの学習を中心とする一年間のまとめにふさわしい学期となります。
三年生はこれからの入試に向けて、そして、一、二年生は、学年のまとめとして、本腰を入れて取り組んでいきたいと思います。
新しい年を迎え、関中学校職員一同、精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので本年もよろしくお祈り致します。

下のQRコードを読み込むと学校のホームページに行けます



新年を迎えて

新年を迎え、それぞれの学年の仕上げの時期になりました。何事にもやる気をもってがんばってほしいと思います。

今、みなさんは長い人生の中で一番伸びる時だと思えます。その気になってがんばるのと、適当にだらだらと遊び暮らしてしまうのでは成長の仕方も大違いとなるでしょう。大違いになるどちらの道を選択するかはみなさん次第です。自分を育てるのも、自分をつぶすのも、自分をまっすぐ進ませるのも、自分を曲げてしまうのも自分です。自分に責任をとれるのは自分しかいません。たとえ親であっても子の成長の全責任を負う事はできません。

もうぼつぼつ大人に近づいている人間として、そういう自覚をもってほしいと思います。よい3年のスタートはよい2年生の仕上げで決まってくるように思います。活気のある新年のスタートを切ってください。

- ・宿題はすべて出しましたか。
- ・きもちよい挨拶はできていますか。
- ・遅刻はしていませんか。



一、二年生のみなさんへ

授業さえきちんと受けていれば、勉強はできるようなものだとわれわれは思っています。それは、授業中がもっとも集中して、見聞きし、考え、わかり、おぼえることのできる時間だという意味です。授業中ぼんやり外のことを考えていて、ここはあとでやればいいいやと思っていたことはありませんか。それが重なることができなくなってしまいます。勉強がわからなくなった人は、たいがい、ものごとを「後おくり」することが多いようです。

後には、後のやることありますから、「後でやる」はほとんど「やらぬ」と同じ意味になってしまいます。人間はだれでも楽しいことを先

にやめて、苦しいことを後まわしにしたがりませんが、宿題のような、どちらかというと大変なことを先にして、楽しいことを後にする方が、習慣として身に付きやすいそうです。
授業を大切に、帰ったらすぐ復習と宿題をかたづけられることが大切です。

三年生のみなさんへ

十二月の懇談で、それぞれの進路志望が具体化され、心を新たに正月を迎えたことと思います。今のみんなの様子を見ていると学習意欲が高まり、努力しているのがよくわかります。しかし、なかには、日がたつにつれ、いたずらに不安な気持ちになったり、自信を失ったりする人もいます。これありません。どんなことでも、人は努力することによって今まであまり気づかなかった自分の欠点がだんだんと見えてくるものです。心配や不安をもたない人はいないと思います。いたずらに役に立たない心配をするよりも、一步一步、現在自分がしなければならぬことを、着実に努力実行することが大切です。

自分の力で、目指す進路を切り開き、悔いを残さぬよう、ベストをつくしましょう。

漢字相撲の学習に取り組む三年生



精一杯の三学期に！